

# 1. 評価報告概要表

作成日 2008年12月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070101223
法人名	財団法人老年病研究所
事業所名	グループホームひまわり
所在地	前橋市大友町三丁目22番地9号 (電話) 027-253-3322

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年12月10日

## 【情報提供票より】(平成20年 11月 16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 18人, 非常勤 1人 常勤換算	18.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	有 150,000		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は、1日 1,600円		

### (4) 利用者の概要( 11月 16日現在)

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(財) 老年病研究所付属病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人内事業所として、病院、老人保健施設、通所、訪問施設などによる集積的施設の中で運営されているグループホーム(3ユニット)である。建物は医療機関の関連としているため、併設病院との関連で入居者が安心して居られる施設である。事業所運営に資する職域を対象とした研修体制で機能し、スタッフ全員が参加した介護実務の職場内研修等を重視している。ケア能力の向上に努め生活歴からくる問題行動の分析などが優れている。特に食事内容については馴染める第一歩として関心を持って献立をし、楽しく過ごせるように支援をしているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は、スタッフ会議で検討をしている。ネームプレートの裏面に理念を印刷し、管理者、職員は理念の共有に努めている。また、重度化や終末期の対応は、方針を文書化中である。災害対策については組織を再構築して今年度は地域の人達と防災協定を結ぶ予定である。鍵を掛けないケアについては考慮中であり、入浴については希望に沿えるように努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、毎週開催されるカンファレンスで話し合い各フロアのリーダーがまとめ、管理者が作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、自治会長、老人会長、市職員、家族の代表で隔月に開催し、ホームの運営状況、行事や入居者の様子など報告している。防災について意見交換が行われ、その結果、通報方法などをスタッフや家族に報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応については、苦情相談窓口を説明書類に明記し入居時に説明している。また、意見箱を玄関に置いている。運営に関する家族の意見等を電話や面会時に聞いて、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人達を対象にした講演会を開催したり、併設病院や老人保健施設の合同の夏祭りに地域の人達を招待しているが、地域の行事については参加していない。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時より「できる力」を大切にを理念として支援をしている。理念に、言葉として地域と関係性が表現されていない。	○	地域の多くの方に地域密着型サービスの存在を知って理解して貰うために、今までの理念の中に地域との繋がりを重視する内容の言葉を表現した理念を検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を居間や事務室に掲示したり、ネームプレートの裏側に印刷して、管理者と職員は理念を共有している。管理者が、全体会議で理念と日常のケアをコーディネートし理念を確認し、スタッフは理念に基づき家庭的な雰囲気の中でその人らしくを重点に一人ひとりのケアに努めている。		
/「家庭的な					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で施設の見学会や施設主催の講演会の開催提案があり、理事長と眼科医による地域の人達を対象とした講演会を開催している。併設病院や老人保健施設合同の夏祭りに地域の人達を招待しているが、地域の行事は参加していない。	○	地域の一員として、地域活動に事業所独自として参加し地域の方々と交流を深められることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価及び外部評価について理解している。自己評価は、毎週開催されるカンファレンスで話し合い各フロアのリーダーがまとめ管理者が作成している。外部評価は、スタッフ会議で検討を行い、名札裏面に理念を記載したり、重度化について方針を文書化中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月に開催し、ホームの運営状況、行事や入居者の様子など報告している。また、防災について意見交換を行い、スタッフや家族に通報方法等を報告しサービス向上に活かしている。自己評価や外部評価は報告を行い、話し合いは行っていない。	○	運営推進会議では、評価についてを議題として、懸案事項の取り組み状況や結果報告のみならず、自己評価や外部評価の検討や話し合いを行い、協議内容を記録し、評価を活かす取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、各種書類などを持参した際に、事業実施状況やサービスの取り組み状況を説明したり話を聞き、質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話で、日常生活状況等を報告している。家族会議を年一回の運動会に併せ開催し、事業報告や意見交換を行い、事業への参加依頼をしている。金銭管理は、現金所持者以外はレシート精算としている。異動職員は面会時に紹介し、入り口に写真を掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は説明書類に明記し、入居時に説明している。また、意見箱が玄関に置いてある。家族から意見等は、利用料を持参の際やケアプラン見直し時に聞いている。入居者の服装に関する家族からの要望には、直ぐに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動やユニット間の異動は極力抑え、異動してきた職員や新規採用職員には、オリエンテーションを10日間程行っている。また、入居者の顔や氏名・性格を知ってもらうまでの2～3ヶ月は日勤だけとし夜勤は行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用職員、経験者、主任、管理者等の段階に応じた心がまえの問題などの研修を行い、職員の資質向上を目指している。スキルアップ研修として県や県社会福祉協議会が開催する基礎研修や中堅者研修を受講している。また、法人全体として各部署の研究成果発表会を年度末に行い、職員の資質向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修は、他のグループホームの受け入れを行っている。地域密着型サービス連絡協議会に加入しているが、大会や相互訪問派遣には参加していない。	○	同業者と交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上を図られるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が見学し、入居者とお茶を飲んだり話している。入居後は24時間の生活スタイルを2週間観察し、その人にあったサービスを提供している。食事が美味しく食べられることを大切に考え、先ず食事の献立や調理に気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ目線でのコミュニケーションを心がけ、家族からこれまでの生活等の情報を得て、食器拭きや貼り絵を共に行ったり、クリスマスツリーを一緒につくったり、古い言葉や歌を教えてもらっている。また、入居者の昔の苦労した生活状況を教えてもらうなど、共に支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	洗濯物たたみや食器拭きなどは、手伝いが出来るか、本人に意向を聞きながら行ってもらっている。意思表示の困難な入居者は、顔の表情から推測し、家族に相談しながら本人本位のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、2人の入居者を受け持っている。介護計画は、24時間シートにより問題点を把握し、本人の希望を聞き担当職員が素案を作り、フロアリーダー、ケアマネージャーで話し合い会議に諮り、ケアマネージャーが家族の要望を聞き、計画書を作成している。本人や必要な関係者と話し合い、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月間予定表を作成し、3ヶ月毎に見直しを行っている。入居者の状況変化は、その都度家族に連絡をしており、家族、本人、関係者と話し合い介護計画の見直しを行い、新たな介護計画書を作成し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医や専門病院への送迎は、家族が対応しているが、併設病院への送迎は総て職員が対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によりかかりつけ医による受診を行っている。その他の入居者は家族の希望により、併設病院の医師が月2回往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に施設の現状を説明し、入居者の状況変化において家族の希望を聴きながら老人保健施設への斡旋や病院への入院対応としている。現在行っている重度化や終末期の対応についての方針を明文化中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の接遇研修や日常の業務中に言葉かけ等でプライバシーを損ねないよう指導している。記録等は事務室で記入し、保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	室内ゲーム等の希望を聞き、日々対応している。外出を希望する入居者には職員が付き添い、食事の遅い入居者にはその人のペースを大切に支援し、雑巾を縫ったり、家族と毛染めやパーマを掛けに行く等一人ひとりの希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者の希望を取り入れ、代表者は食事内容に関心を持ち総ての献立に目を通している。仕込みやお茶いれ、下膳、食器拭きを行い、年2回の外食行事や系列の老人保健施設のイベント食を取り寄せる等入居者と共に食事を摂り楽しい一時を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回とし、各ユニット毎に入浴日が異なり毎日の入浴も可能である。ゆず湯などを行ったり、湯上がりにクリームを使用する入居者もいて、入浴を楽しめる雰囲気づくりをしている。入浴を拒否する入居者には、言葉かけ等により無理なく入浴できるよう勧めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴は家族から情報を得て、一人ひとりにあわせて話しかけ等をしている。毎日併設病院へゴミを運び、居室の掃除や調理の仕込み等を頼み、買い物ツアーでのショツピングや併設施設と合同の夏祭りやオアシスコンサート、餅つき行事等を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接している併設病院の中庭や近くの公園への散歩、また季節には敷島公園の花見やイチゴ狩りに行ったり、外食行事や買い物ツアー等機会をつくり外出を楽しんでいる。また、見晴らしの良い屋上菜園での手入れなども行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターは暗証番号で開閉し、階段の扉は鍵がかかっている。災害時の非常口は、一斉に開閉できる装備となっている。	○	鍵をかけることの弊害について職員と話し合い、入居者の安全を確保しつつ、鍵をかけないケアについて工夫されるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回のうち1回は消防署の指導を受け、避難・消火・通報訓練を設備業者も参加して行っている。地域の人達と自衛消防隊を平成14年に立ち上げ、この組織を再構築して今年には地域の人達と防災協定を結ぶ予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成している。食事の摂取量は温度板に記録し、摂取量が少く健康を損ねる危険がある時は医師と相談し補助剤を与えたり、おやつにカロリーのある物を支給している。水分摂取に注意を要する入居者には、尿量を記録し十分な水分を取るよう注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダのプランターに花が植えられたり、玄関に観葉植物が置かれている。居間兼食堂の西側に広く大きなガラス窓があり、明るく開放的であり、テレビやソファが配置され、くつろぎながらテレビを見たり、談話したりすることができるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはダンスや机、椅子、テレビ、ソファ等が持ち込まれ、家族との写真が飾られる等居心地良く過ごせるよう配慮されている。		